

- 問1 7世紀から8世紀にかけての律令国家形成期の出来事について、天武天皇の事績として正しい記述はどれか。 (2022年 大分県公立入試 類似)
1. 唐と新羅の連合軍に大敗した白村江の戦いを受けて、九州沿岸に防人や水城を配置して国防を強化した。
 2. 遣隋使を派遣して大陸の進んだ制度を学び、仏教を政治の柱とするために四天王寺や法隆寺を建立した。
 3. 飛鳥地方に都を戻して飛鳥浄御原宮で即位し、中央集権化のために「天皇」という称号や「日本」という国号を使い始めたとされる。
 4. 都を近江大津宮に遷し、日本最古の戸籍とされる庚午年籍を作成して、国民の把握に努めた。
- 問2 663年に朝鮮半島で起きた白村江の戦いにおいて、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗北した後、国内で取られた国防対策の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
1. 外国船の来航を制限するため、長崎の出島のみでオランダや中国との貿易を認めた
 2. 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた
 3. 蝦夷（えみし）の抵抗を抑えるために多賀城を築き、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じた
 4. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築き、集団戦法を用いる敵の侵入を防いだ
- 問3 舒明天皇や皇極天皇の流れを汲む天皇家において、中大兄皇子（天智天皇）と中臣鎌足が大化の改新を進めた後の時代に起きた「壬申の乱」の説明として正しいものはどれか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. 唐・新羅の連合軍に敗北したことをきっかけに、国内の防衛体制を整えるために起きた争い。
 2. 後白河法皇の後継者問題をめぐり、源氏と平氏が対立して京都で発生した大規模な戦乱。
 3. 天智天皇の弟である大海人皇子が、天皇の息子である大友皇子を倒して実権を握った争い。
 4. 蘇我氏の独裁的な政治に不満を持った皇族たちが、宮中で蘇我入鹿を暗殺した事件。
- 問4 律令国家が戸籍を作成し、すべての人々に「口分田」を分け与える「班田収授の法」を実施した最大の目的は何ですか。当時の政治方針に深く関わる理由を説明したものを選んでください。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
1. 土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則を確立し、税を確実に徴収するため。
 2. 農民の不満を解消するために、重い税の負担をなくして土地を自由に売買させるため。
 3. 大陸との戦争に備えるため、すべての土地を軍事基地として活用しやすくするため。
 4. 地方の豪族に土地の私有を認めることで、中央政府への忠誠心を高めさせるため。
- 問5 7世紀初めの日本において、聖徳太子らが「冠位十二階」を定めた背景には、天皇中心の政治を強化しようとする意図がありました。この制度の特徴について述べた文として、正しいものを一つ選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
1. 役人が職務を行ううえで心構えを説いたもので、儒教や仏教の考え方が取り入れられた。
 2. 遣唐使として派遣された留学生の意見を取り入れ、全ての土地と人民を天皇のものとした。
 3. 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。
 4. 豪族の身分を固定化し、その子孫が代々高い地位を継承することを保障した。
- 問6 645年に始まった大化の改新では、天皇を中心とする新しい国家体制の構築が目指されました。この改革において、遣隋使や遣唐使として中国に渡り、大陸の進んだ政治制度や法律を学んで帰国した留学生や学問僧が任命された、政治の助言を行う重要な役職の名称として正しいものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
1. 執権
 2. 国博士
 3. 検非違使
 4. 防人
- 問7 日本の税の歴史をたどる資料において、その出発点として紹介されるのが701年に完成した「大宝律令」です。この法令によって定められた、都での労役の代わりに布を納める「庸」や、各地の特産物を納める「調」といった税制度について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 山口県公立入試 類似)
1. 「調」は、土地の面積に応じて全ての耕作者に一律で課せられる税であった
 2. 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた
 3. 税を納めるために都へ向かう際の食料や旅費は、すべて国から支給されていた
 4. 「庸」は、収穫した稲の一定割合を地方の役所に納めるものであった
- 問8 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。
 2. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。
 3. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。
 4. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。
- 問9 飛鳥時代に建立された豪族寺院について、その特徴を正しく述べたものはどれですか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
1. 平安貴族が浄土への憧れから、寝殿造の様式を取り入れた華麗な庭園とともに建てた。
 2. 遣唐使によってもたらされた最新の禅宗を広めるため、幕府の全面的な支援を受けて建てた。
 3. 国ごとに国分寺と対になる形で設置され、女性の僧侶が修行する場所として建てた。
 4. 聖徳太子による仏教振興を背景に、豪族たちが勢力の大きさをアピールするために建てた。
- 問10 7世紀半ば、朝鮮半島の南西部に位置し、日本（倭）と親密な関係にあったものの、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた国はどこか。日本はその復興を支援するために、663年に朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで大敗を喫することとなった。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 高句麗
 2. 百済
 3. 任那
 4. 新羅
- 問11 聖徳太子（厩戸皇子）が「十七条の憲法」を制定した背景には、当時の政治的な課題を解決する狙いがありました。この法令を通じて太子が実現しようとした「国家のあり方」として、最もふさわしい説明はどれですか。 (2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家
 2. 海外の十字軍派遣の動きに合わせ、キリスト教を国教として受け入れる宗教的な国家
 3. 地方の農民に土地の私有権を認め、それぞれの生活を安定させることで成り立つ地方分権的な国家
 4. 国民の選挙によって選ばれた代表者が、議会で法律を決定する立憲民主主義的な国家
- 問12 7世紀の飛鳥時代、日本（倭）は百済の復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江の戦いにおいてある2つの国の連合軍に大敗しました。この時、日本が対戦した連合軍の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。 (2018年 富山県公立入試 類似)
1. 隋と高句麗
 2. 宋と新羅
 3. 元と高麗
 4. 唐と新羅
- 問13 7世紀、日本では中大兄皇子らが政治改革を進める一方で、朝鮮半島の情勢変化に対応した外交が行われました。唐によって滅ぼされた友好国の復興を支援するために倭（日本）が朝鮮半島へ大軍を派遣した出来事について、その目的と対戦相手の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)
1. 高句麗の再興を支援するため、唐・新羅の連合軍と戦った
 2. 新羅の領土拡大を阻止するため、唐の軍隊と単独で戦った
 3. 百済の再興を支援するため、元（モンゴル）の軍隊と戦った
 4. 百済の再興を支援するため、唐・新羅の連合軍と戦った

答え合わせ・解説

問1	答え 3 飛鳥地方に都を戻して飛鳥浄御原宮で即位し、中央集権化のために「天皇」という称号や「日本」という国号を使い始めたとされる。	天武天皇は、それまで「大王」と呼ばれていた君主の称号を「天皇」へと定め、国号を「日本」とした時期の人物と考えられています。また、歴史書である「古事記」や「日本書紀」の編纂を命じたのも彼であり、国家としてのアイデンティティを確立しようとした点が大きな特徴です。他の選択肢は、天智天皇（近江大津宮、庚午年籍、白村江の戦い）や聖徳太子（遣隋使、法隆寺）に関する内容です。
問2	答え 2 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた	白村江の戦いで敗れた日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州の北部に「水城」や「朝鮮式山城」を築いて防御を固めました。また、北九州の沿岸を守る兵士として、東国出身者を中心とした「防人（さきもり）」を配置しました。石築地は鎌倉時代の元寇、多賀城は平安初期、出島は江戸時代の出来事です。
問3	答え 3 天智天皇の弟である大海人皇子が、天皇の息子である大友皇子を倒して実権を握った争い。	壬申の乱は、天智天皇の死後にその弟である大海人皇子と、後継者とされていた息子の大友皇子の間で起きた、古代最大の内乱です。この争いは、天智天皇が進めた近江大津宮での政治に対する地方豪族の不満なども背景にあり、最終的に吉野で挙兵した大海人皇子が勝利しました。これにより、勝利した天武天皇による強力な天皇専制政治が実現することとなりました。
問4	答え 1 土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則を確立し、税を確実に徴収するため。	大化の改新以降、政府はそれまで有力豪族が支配していた土地と人民を、国家が直接支配する「公地公民」の仕組みへと転換しようとしていました。口分田を与えて戸籍で管理することで、誰がどこで耕作しているかを把握し、租・庸・調などの税や防人などの兵役を課す基盤を作ることが目的でした。
問5	答え 3 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。	冠位十二階は、功績があった本人に位（冠）を与える制度であり、その地位は子孫に引き継がれる「世襲」ではありませんでした。家柄に関係なく、実力のある人物を役人として引き立てるこの仕組みは、当時の中国（隋）の制度も参考にされています。また、役人の心構えを説いたものは、同時期に制定された「十七条の憲法」です。
問6	答え 2 国博士	飛鳥時代の海外交流に関する記録によれば、遣隋使や遣唐使に同行して大陸へ渡った人々の中には、長期間滞在して現地の高度な統治システムを学ぶ者がいました。彼らは帰国後、その知識を高く評価されて「国博士（くにのはかせ）」という役職に就き、大化の改新における律令国家建設に向けた理論的な指導者として活躍しました。
問7	答え 2 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた	大宝律令のもとで課せられた「庸」や「調」は、負担者自身が都まで運搬する義務（運脚）を伴っており、農民にとって極めて重い負担となっていました。なお、収穫した稲を納めるのは「租」であり、食料などの旅費も自己負担でした。
問8	答え 3 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問9	答え 4 聖徳太子による仏教振興を背景に、豪族たちが勢力の大きさをアピールするために建てた。	飛鳥時代、聖徳太子が仏教を厚く保護し政治の柱としたことで、蘇我氏などの豪族もこれに倣いました。当時、大規模な寺院を建立することは、高度な建築技術や大陸の文化を所有していることの証明であり、自らの権威を内外に示す手段でもありました。奈良時代の聖武天皇による国分寺建立が「国家の安泰」を目的とした公的な性格を持つのに対し、飛鳥時代の寺院は「豪族の権威付け」という私的な性格が強いのが特徴です。
問10	答え 2 百済	7世紀の朝鮮半島では、唐と結んだ新羅が勢力を拡大していました。660年に百済が滅亡すると、日本（倭）は友好関係にあった百済の遺臣から救援を求められ、復興を支援するために大軍を派遣しました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北したことで、百済復興の道は閉ざされました。
問11	答え 1 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家	当時の日本は有力な豪族が独自の力を持ち、勢力争いを繰り返していました。聖徳太子はこうした状況を打破し、中国（隋など）のような組織立った国家を作るため、役人の地位を明確にする冠位十二階と、その倫理規定である十七条の憲法をセットで運用しました。これにより、豪族たちを「天皇に仕える役人」へと再編し、国家としての統一感を高めようとしたのです。
問12	答え 4 唐と新羅	663年、日本は同盟関係にあった百済を助けるために水軍を派遣しましたが、白村江（はくすきのえ）において、当時朝鮮半島で勢力を拡大していた新羅と、それを支援する唐の連合軍に敗北しました。この敗戦により、日本は朝鮮半島における拠点を完全に失うこととなりました。隋は白村江の戦いの以前に滅亡しており、元や高麗は中世（鎌倉時代）の勢力です。
問13	答え 4 百済の再興を支援するため、唐・新羅の連合軍と戦った	660年に唐と新羅の連合軍によって百済が滅ぼされると、倭（日本）は友好国であった百済の遺臣から救援を求められました。中大兄皇子は百済を再興させるために朝鮮半島へ大軍を送りましたが、663年に白村江（はくすきのえ）で唐・新羅の連合軍と衝突し、倭の水軍は壊滅的な打撃を受けて大敗しました。この敗北は、その後の日本の国内体制の整備や防衛強化に大きな影響を与えました。